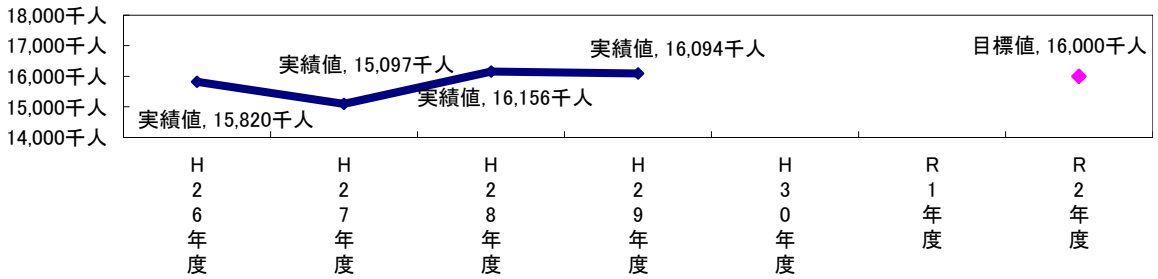
滋賀県文化振興基本方針（第2次）評価項目にかかる目標と実績

評　価　項　目	対象重点施策	平成29年度	平成30年度	令和2年度（目　標）
重点施策1：文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信 ①観光・産業分野との連携による魅力ある文化的資産の活用 ②魅力ある文化的資産の発信・交流の促進　③芸術創造の促進				
延観光入込客数（1～12月：歴史・文化、行祭事・イベント）	1－①	16,094人 （H29年1月～12月）	－	16,000千人
県関係文化サイトの閲覧数	1－①	（1,019千件）	3,030千件	2,665千件
重点施策2：地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用 ①滋賀ならではの文化的資産の発掘　②滋賀ならではの文化的資産の保存と活用				
国登録有形文化財の数	2－①	408件	405件	400件
文化財等を活用した県実施事業参加者数	2－②	6,198人	5,058人	4,100人
重点施策3：子どもが本物の文化に触れる機会の充実 ①子ども・若者向け公演・展示等の拡充　②地域における文化体験学習の充実 ③学校教育における文化体験学習の充実　④教員を対象とした文化研修機会の充実				
（各県立文化ホール・近代美術館の実施事業において）芸術鑑賞した小中学生数	3－①③	28,899人	27,658人	30,000人
文化・芸術の体験学習を行う児童生徒数	3－③	8,594人	9,516人	14,000人
しがこども体験学校参加団体数	3－③	146団体	155団体	200団体
重点施策4：若手芸術家等の育成・支援 ①若者の文化活動の促進　②若手芸術家、伝統文化伝承者等の育成・支援 ③顕彰制度の充実　④若手芸術家等の活動情報の収集および情報発信支援				
滋賀県芸術文化祭（文学祭、美術展、写真展）における若者（30歳未満）の参加者数	4－①	43人	92人	100人
全国高等学校総合文化祭への派遣人数	4－①	371人	374人	300人
重点施策5：文化活動を支える人材（アートマネージャー等）の育成・支援 ①文化活動を支える専門人材の育成・支援　②文化ボランティアの育成 ③教員を対象とした文化研修機会の充実（再掲）				
アートマネージメント研修の施設職員に対する受講割合	5－①	19.9%	18.5%	40.00%
県立文化施設の文化ボランティアの数	5－②	550人	606人	700人
重点施策6：新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進 ①幅広い県民が参加できる多彩な事業展開の推進　②文化芸術の力を活かした若者の交流機会の創出				
文化プログラム実施件数（団体数）	6－①	151件	253件	300件
重点施策7：美の滋賀づくりの推進 ①滋賀の美の魅力を県民自らが伝える舞台づくり ②新生美術館を核とした地域や現場との交流と県内外への発信				
美の資源を活用した地域団体等との連携事業数	7－①	31件	43件	50件
***近代美術館等*が事業実施にあたり連携した施設・団体数**	7－②	228団体	221団体	100団体
重点施策8：自立的な文化活動の促進 ①文化団体の自立的な活動の促進　②文化ボランティア活動の促進 ③企業等による文化活動支援の促進　④後援、顕彰等の推進				
1年間に文化創作活動を行ったことのある県民の割合	8－①	70.1%	65.9%	77.0%
民間団体等が主催する文化・芸術行事への県の後援件数	8－④	290件	283件	340件
県内で活動する文化芸術団体・NPO等の数	8－①	146団体	151団体	200団体
重点施策9：文化活動の環境の整備 ①県内文化施設のネットワーク化による有効活用　②文化活動の場の拡充（文化施設以外の場）③障害者、高齢者、子育て中の保護者等の文化活動の充実　④情報の発信・取得の環境整備の推進				
1年間に芸術文化を鑑賞したことのある県民の割合	9－①	82.4%	74.4%	85.0%
1年間に文化創作活動を行ったことのある県民の割合　【再掲】	9－①	70.1%	65.9%	77.0%
県関係文化サイトの閲覧件数　【再掲】	9－④	1,019千件	3,030千件	2,665千件

重点施策1	延観光入込客数（1月～12月）（①）



評価指標の説明	目標値の説明
一年間に歴史・文化、行祭事・イベントを目的に滋賀県へ訪れた観光客数（1月～12月）。	観光振興局の公表データから引用。外国人観光客が増加傾向にあることから、傾向把握のため使用。長期目標を定めていないため、目標値は平成27年度アクションプラン（H25の1割増）から引用。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	15,820千人	15,097千人	16,156千人	16,094千人			16,000千人

出典・調査方法等

滋賀県商工観光労働部観光振興局において実施している滋賀県観光入込客統計調査より抜粋

備考

調査対象期間は1月から12月。調査した翌年12月頃に結果を公表。

この指標に関連するデータ

延観光客者数
＜H26＞46,329千人
＜H27＞47,941千人
＜H28＞50,767千人
＜H29＞52,481千人

目的別内訳

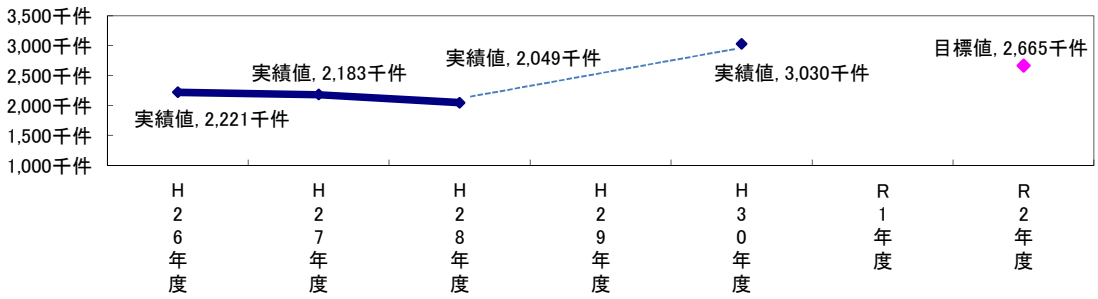
「歴史、文化」			「行祭事・イベント」		
＜H26＞	26.0%	12,023千人	＜H26＞	8.2%	3,797千人
＜H27＞	24.1%	11,531千人	＜H27＞	7.4%	3,566千人
＜H28＞	23.6%	12,003千人	＜H28＞	8.2%	4,153千人
＜H29＞	22.8%	11,988千人	＜H29＞	7.8%	4,106千人

指標と連動する施策

県立文化施設における観光や地域と連携した事業展開

歴史文化資産や文化施設などを活用した観光振興

重点施策1、9	県関係文化サイトの閲覧数 （②・⑳）



評価指標の説明	目標値の説明
滋賀県（文化芸術、文化財）、びわ湖ホール、びわ湖芸術文化財団、琵琶湖博物館のホームページアクセス件数。	県HP、文化振興事業団HP、県関係施設HPの閲覧数の合計。特定の施策が直接成果に結びつくものではないため、事業を通じた取組や連携した広報・PRにより認知度を高め、５年後に約２割増を目標値として設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	2,221 千件	2,183 千件	2,049 千件	(1,019) 千件	3,030 千件		2,665 千件

出典・調査方法等

県および各文化施設のホームページアクセス件数

備考

平成28年度に県ホームページカテゴリー変更。
平成27年度「家庭文化」、「暮らし文化」、「暮らし文化財」→平成28年度「文化・芸術」、「文化財」

平成29年度琵琶湖博物館のHP移行作業があったため、数値の算定が不可能

この指標に関連するデータ

県
＜H26＞67,437件
＜H27＞64,621件
＜H28＞12,439件
＜H29＞11,004件
＜H30＞11,418件

びわ湖ホール
＜H26＞577,526件
＜H27＞634,184件
＜H28＞612,050件
＜H29＞699,711件
＜H30＞719,565件

びわ湖芸術文化財団（H28年度までは文化振興事業団）
＜H26＞572,056件
＜H27＞474,100件
＜H28＞418,429件
＜H29＞308,268件
＜H30＞445,089件

琵琶湖博物館
＜H26＞1,003,688件
＜H27＞1,010,058件
＜H28＞1,005,747件
＜H29＞HP移行作業のため数値の算定が不可能
＜H30＞1,853,921件

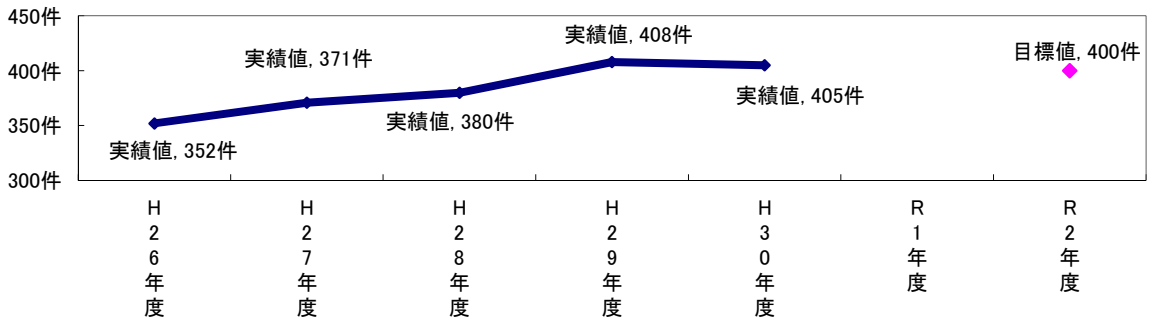
【参考】 SNSフォロワー数・登録者数（令和元年6月末）
・文化芸術振興課：Facebook（703人）
・びわ湖ホール：Facebook（4,921人）、YOUTUBE（137人）、twitter（2,739人）
・びわ湖芸術文化財団：Facebook（21人）、twitter（1,293人）
・琵琶湖博物館：Facebook（3,218人）、YOUTUBE（21人）

指標と連動する施策

マスコミやインターネット媒体を通じた効果的な情報発信

多言語化対応による誘客の促進

重点施策2	国登録有形文化財の数（③）



評価指標の説明	目標値の説明
県内の国登録有形文化財の登録件数により歴史的建造物の保存の取組状況を示す指標。	第１次方針同様、歴史的建造物の保存の取組状況を示すため、年8件程度の登録があると見込み、平成32年度の目標を400件に設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	352件	371件	380件	408件	405件		400件

出典・調査方法等

文化財保護法第57条第１項により文化庁の文化財登録原簿に登録されている登録有形文化財の件数

備考

国登録有形文化財：建造物で建築後50年を経過したもののうち、歴史的景観に寄与するもの等を登録する制度
教育委員会文化財保護課所管

この指標に関連するデータ

全国登録数累計12、121件（令和元年6月１日時点、文化庁HPより）

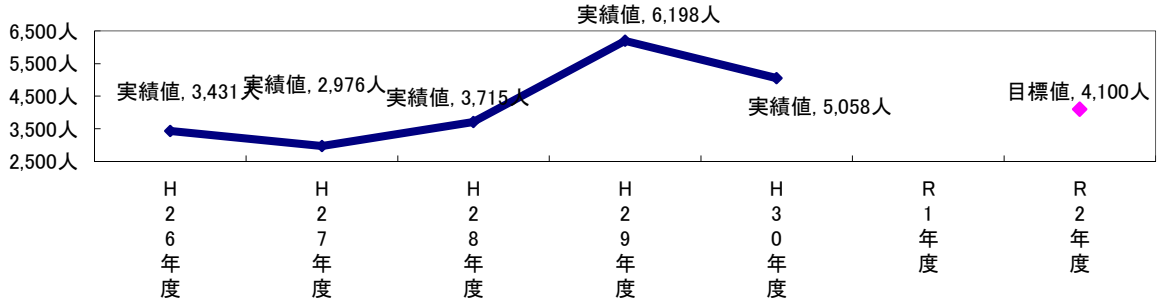
滋賀県内・指定文化財（建造物）

【国指定】	【県指定】	【市町指定】
H29　185件	H29　73件	H29　266件
H30　185件	H30　75件	H30　265件
H31　186件	H31　74件	H31　266件

指標と連動する施策

国宝等の指定文化財や登録文化財等の保存と公開

重点施策２	文化財等を活用した県実施事業参加者数（④）



評価指標の説明	目標値の説明
滋賀ならではの文化財等を活用した学習機会の創出など、その価値に気づき、保存・継承等につなげるために県が実施するの事業状況を示す指標。	現状の数値からの向上を目指して取り組む。平成２６年度（現状）から２０％増の4，100人に目標を設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	3,431人	2,976人	3,715人	6,198人	5,058人		4,100人

出典・調査方法等

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課が実施する文化財等を活用した事業に参加した人数。

備考

この指標に関連するデータ

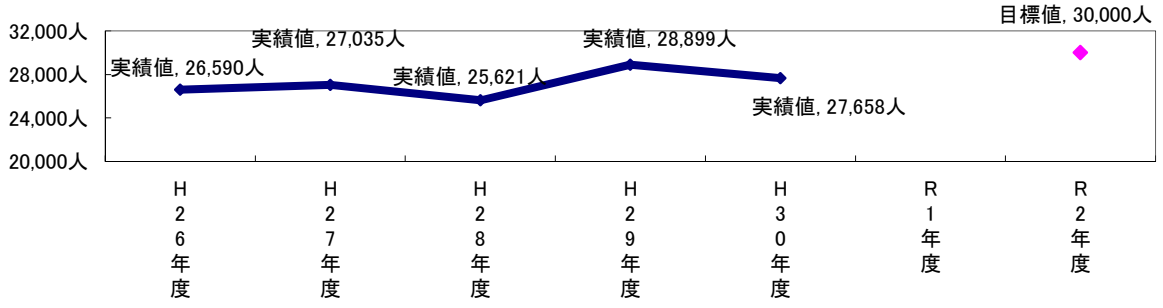
	＜H27年度＞	＜H28年度＞	＜H29年度＞	＜H30年度＞
・「千年の美」つたえびとづくり事業	429人	312人	ー（廃止）	
・人と地域が輝く歴史遺産活用モデル事業	785人	771人	ー（廃止）	
・「戦国の近江」魅力発信事業	1,294人	1,039人	772人	1,114人
・滋賀の文化財講座「打出のコヅチ」	425人	564人	777人	945人
・「近江の心」を伝えるまつり継承・支援事業	43人	135人	ー（廃止）	
・城郭調査事務所出前講座・現地案内	ー	894人	1,438人	1,336人
・滋賀の美と祭りのこころを伝える語り部づくり事業	ー	ー	71人	154人
・滋賀の美と祭りのこころを伝える担い手研修事業	ー	ー	83人	260人
・「近江の心」を育む「伝えたい・残したい郷土の魅力～文化財かるた」作成・活用事業	3057句			1,249句

指標と連動する施策

滋賀ならではの伝統文化の継承

文化財の活用による地域学習と豊かな滋賀づくりの担い手育成

重点施策3	芸術鑑賞した小中学生数(⑤)



評価指標の説明	目標値の説明
各県立ホール、近代美術館において実施する事業において小中学生の芸術鑑賞の実績を示す指標。	平成26年度の値より向上させるよう取組を実施する。平成27年度目標値(30,000人)を維持。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	26,590人	27,035人	25,621人	28,899人	27,658人		30,000人

出典・調査方法等

以下の施設を利用もしくは事業に参加した小中学生数を集計H26年度→H27年度→H28年度→H29年度→H30年度)
〈近代美術館〉7,763人→5,547人→4,466人→10,102人→10,047人
〈びわ湖ホール〉12,104人→ 10,602人→11,694人→11,919人→10,767人(ホール自主公演2,223,人+ホールの子8,544人)
〈びわ湖芸術文化財団〉6,723人→10,886人→9,461人→6,878人→6,844人(文産会館公演3,776人+市町、学校で行った公演3,068人)

備考

びわ湖芸術文化財団(H28年度まで文化振興事業団)

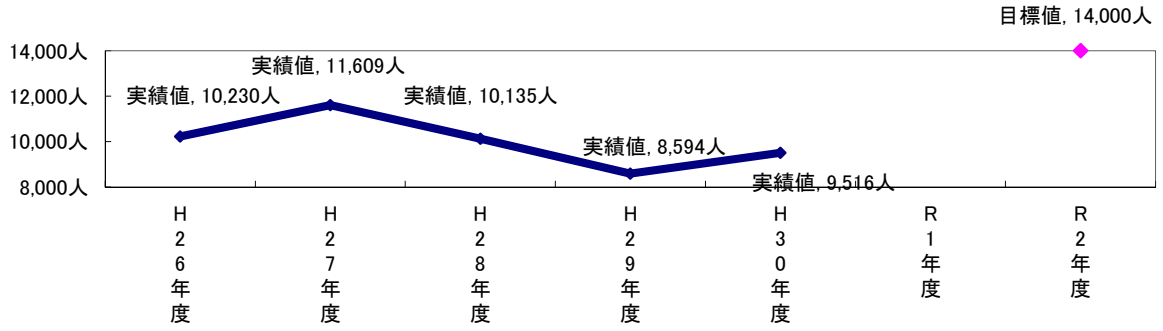
この指標に関連するデータ

平成30年度　滋賀県内における小学生数82,369人(対前年度176人増)　中学生数41,130人(対前年度977人減)
合計123,499人(対前年度801人減)
(全小中学生数に占める芸術鑑賞した小中学生の割合22.4%　対前年度 −0.8%)

指標と連動する施策

- 県立文化ホールにおける青少年向け舞台芸術公演等の開催
- 県立美術館・博物館における青少年向け文化・芸術体験プログラムの提供
- 幼児、家族向け公演・展示等の充実
- 県立美術館・博物館における小中学生等の観覧料の優遇等による鑑賞の促進
- 放課後子ども教室や土曜日の教育支援事業の実施
- 子ども向け体験プログラムの充実
- 県内の全ての小学生等を対象とした本物の舞台芸術に触れる機会の提供

重点施策3	文化・芸術の体験学習を行う児童生徒数(⑥)



評価指標の説明	目標値の説明
県が実施する事業において、県内小中学生に文化・芸術の体験学習の実施状況を示す指標。	文化・芸術の体験学習実施を促進する施策により、県内小中学校1学年の平均児童生徒数の14,000人程度に文化・芸術体験の機会を提供することを目標として設定

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	10,230人	11,609人	10,135人	8,594人	9,516人		14,000人

出典・調査方法等

県が補助金により事業実施を支援しているしが文化芸術学習支援センター（H23年度～滋賀次世代文化芸術センター）において実施している連携授業を体験した生徒数（延べ）

備考

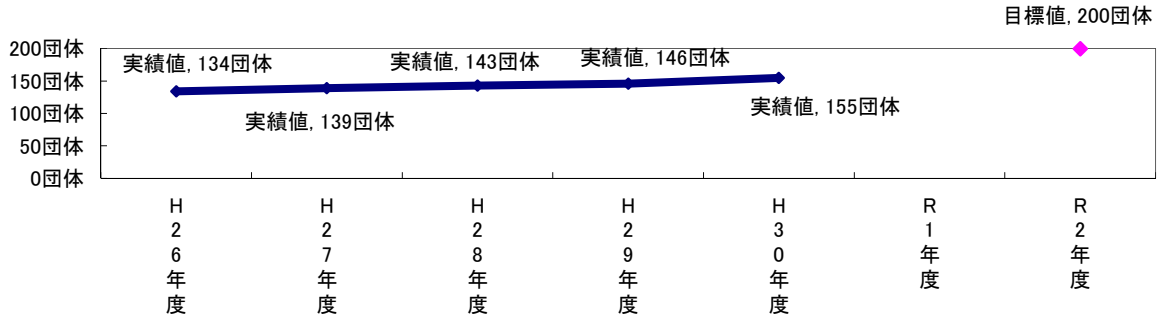
平成26年度の小中学生数125,316人÷9学年＝13,924人≒14,000人

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

学校における文化施設、芸術家等との連携による文化・芸術体験学習の実施

重点施策３	しがこども体験学校参加団体数(⑦)



評価指標の説明	目標値の説明
文化施設、NPO等の各団体による子どもたちの体験学習環境の整備状況を表す指標。	子ども・若者プランの数値目標（平成30年度）に準じて200団体に設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	134団体	139団体	143団体	146団体	155団体		200団体

出典・調査方法等

滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局策定の「淡海子ども・若者プラン」数値目標

備考

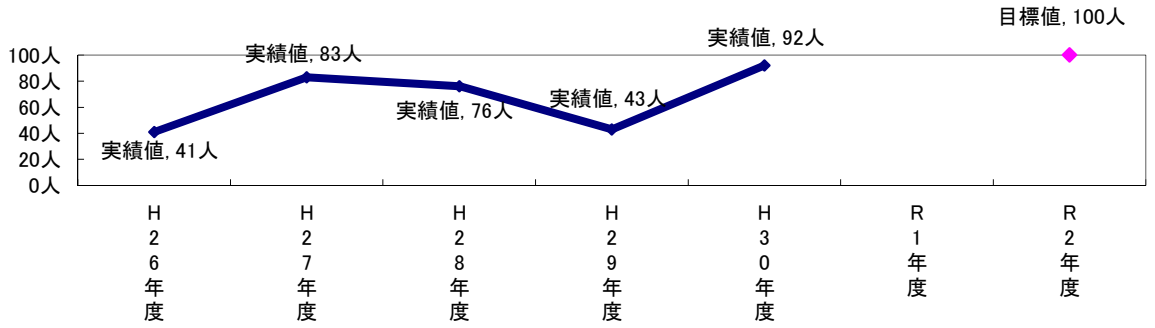
しがこども体験学校：参加団体が県内全小学生を対象に体験活動の場や社会的経験の機会を提供する取組。参加団体は登録制。
県から施設、企業、NPO等の各団体に案内を送付して参加を呼びかけている。平成24年度からはリーフレットを作成し公民館、児童館、博物館、高校等への配布しており、これが参加者の増加につながっているものと思われる。
健康医療福祉部子ども・青少年局所管

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

子ども向け体験プログラムの充実

重点施策4	滋賀県芸術文化祭（文学祭、美術展、写真展）における若者（30歳未満）の参加者数(⑧)



評価指標の説明	目標値の説明
県が主催する芸術文化祭においてどの程度若者（30歳未満）が参加しているのかを示す指標。	芸術祭主催事業への若者の参加の参加促進の取組を充実させることにより、現状（平成26年度）の2.5倍となる100人の参加を目標として設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	41人	83人	76人	43人	92人		100人

出典・調査方法等

滋賀県芸術文化祭参加者内訳
①文学祭＜H26＞878人(若者11人)→＜H27＞905人(若者12人)→＜H28＞854人(若者5人)→＜H29＞792人（若者5人）→＜H30＞736人（若者19人）
②美術展＜H26＞502人(若者27人)→＜H27＞565人(若者67人)→＜H28＞551人(若者70人)→＜H29＞486人（若者37人）→＜H30＞471人（若者71人）
③写真展＜H26＞672人(若者3人)→＜H27＞591人(若者4人)→＜H28＞596人(若者1人)→＜H29＞526人（若者1人）→＜H30＞486人（若者2人）

備考

H26、27年度に全国高等学校総合文化祭を滋賀県で開催。（びわこ総文）
H24年度からは20歳以下を対象としたヤング写真展を同時開催（滋賀県写真連盟主催）
　→H24：11人、H25：43人、H26：63人、H27：59人、H28：60人、H29：64人、H30：73人

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

若者を含め多くの県民が参加できる滋賀県芸術文化祭の開催

重点施策4	全国高等学校総合文化祭への派遣人数(⑨)

評価指標の説明	目標値の説明
高等学校における文化部の県外での活動状況を示す指標。	高校生の県外への活動の広がりを把握する指標として把握。平成26・27年度は本県で総文祭が開催されたため、平成25年度を基準に1割増を目標値設定。

実績値							目標値
現状値は25年度で設定	25年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	278人	986人	359人	371人	374人		300人

出典・調査方法等

滋賀県高等学校文化連盟発行「滋賀県高等学校文化連盟誌」に掲載。

備考

H27年度に全国高等学校総合文化祭を滋賀県で開催。(びわこ総文)
H30年度は長野県で開催。

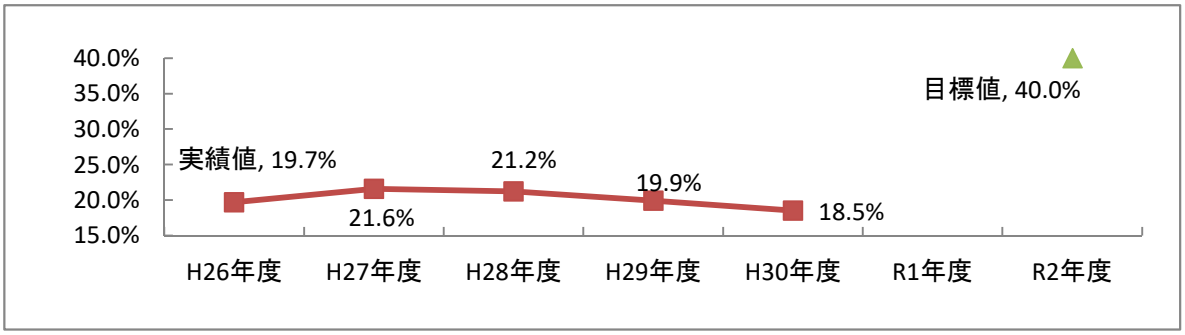
この指標に関連するデータ

県内高等学校の滋賀県高等学校文化連盟の部員数
(H25)5,740人→(H26)5,745人→(H27)5,717人→(H28)5,557人→(H29)5,604人→(H30)5,520人
滋賀県高等学校文化連盟に部会を設置していない「その他(社会問題研究、茶道、華道、茶華道、コンピューター、英会話)」を含めた総数
(H25)8,075人→(H26)7,835人→(H27)7,936人→(H28)7,724人→(H29)7,705人→(H30)7,648人

指標と連動する施策

滋賀県高等学校総合文化祭等の開催

重点施策5	アートマネジメント研修の施設職員に対する受講割合(⑩)



評価指標の説明	目標値の説明
文化施設職員がアートマネジメント研修を受講した割合を示す指標。	文化施設職員の研修受講割合を、現状の倍増を目標値として設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
累積値	19.7%	21.6%	21.2%	19.9%	18.5%		40.0%

出典・調査方法等

①公立文化施設協議会職員研修会参加者数(ｱｰﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ編、ﾃｸﾆｶﾙ･ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ編)
②公立文化施設協議会と文化経済ﾌｫｰﾗﾑが共催するセミナー参加者数の集計を文化振興課にてとりまとめ
①-54名
②-9名
計63名　施設職員数341名

アートマネージメント人材育成講座(文化産業交流会館開催)16名[一般参加者含む講座]

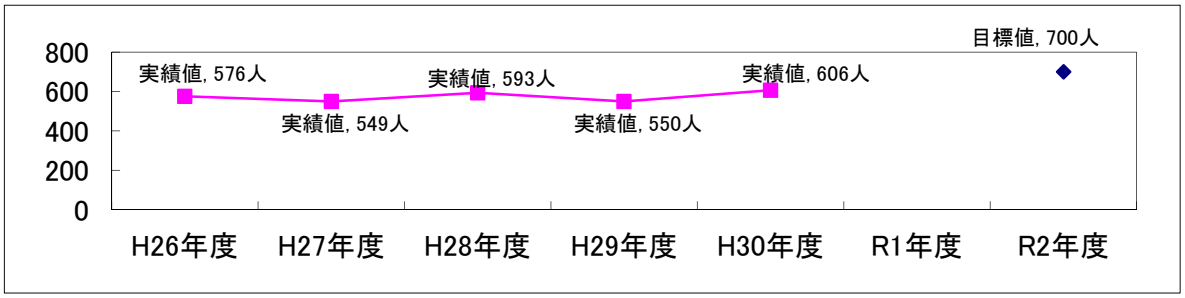
備考

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

文化行政職員や文化施設職員を対象としたアートマネジメント研修の実施

重点施策5	県立文化施設の文化ボランティアの数(⑪)



評価指標の説明	目標値の説明
県立文化施設において活動しているボランティアの合計値。自主的に文化活動を支える人材の活動状況を示す指標。	次世代文化芸術センターのボランティアを中心に50人程度の増を目標として設定。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
	576人	549人	593人	550人	606人		700人

出典・調査方法等

①琵琶湖博物館「はしかけ」②近代美術館「美術館サポーター」③しが文化芸術学習支援センター（H23年度～滋賀次世代文化芸術センター）④びわ湖ホール劇場サポーターの参加人数の合計値を文化振興課にてとりまとめ

文化ボランティア内訳
①琵琶湖博物館はしかけ　＜H26＞296人→＜H27＞321人→＜H28＞331人→＜H29＞336人→＜H30＞387人
②近代美術館サポーター　＜H26＞104人→＜H27＞103人→＜H28＞84人→＜H29＞59人→＜H30＞43人
③滋賀次世代文化芸術センターボランティア登録者
＜H26＞110人→＜H27＞82人→＜H28＞81人→＜H29＞58人→＜H30＞64人
④びわ湖ホール劇場サポーター
＜H26＞66人→＜H27＞43人→＜H28＞97人→＜H29＞97人→＜H30＞112人

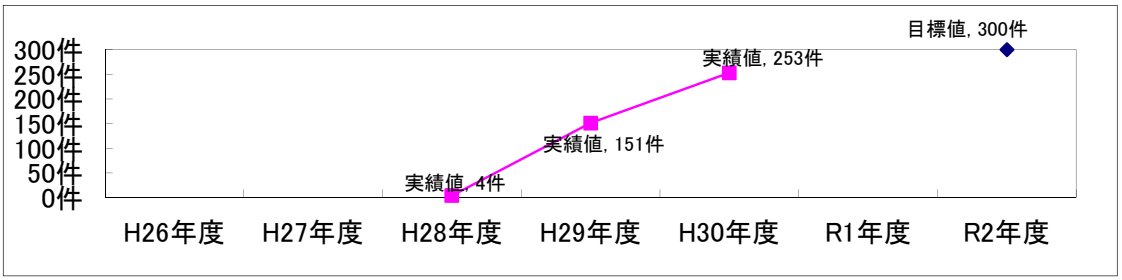
備考

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

文化ボランティア等の拡充および活動の促進

重点施策6	文化プログラム実施件数(⑫)



評価指標の説明	目標値の説明
国等に採択される文化プログラム(東京2020参画プログラム、beyond 2020プログラム)の認証件数。	市町、各関係機関・団体等との連携による周知や情報共有に努め、東京オリパラ開催の平成32年には県内で行われる文化芸術イベント約550件の半分程度を認定されることを目標とする。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
			4件	151件	253件		300件

出典・調査方法等

①東京2020参画プログラム(応援プログラム) [東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会]
対象団体等:スポンサー企業、国、開催都市、地方自治体など
②beyond2020プログラム[内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局]
対象団体等:参画プログラムの対象団体に加え、ノンスポンサー企業
上記2つの文化オリンピアードの認証件数
H29年度①:35件、②:116件 → H30年度①:24件、②:229件

備考

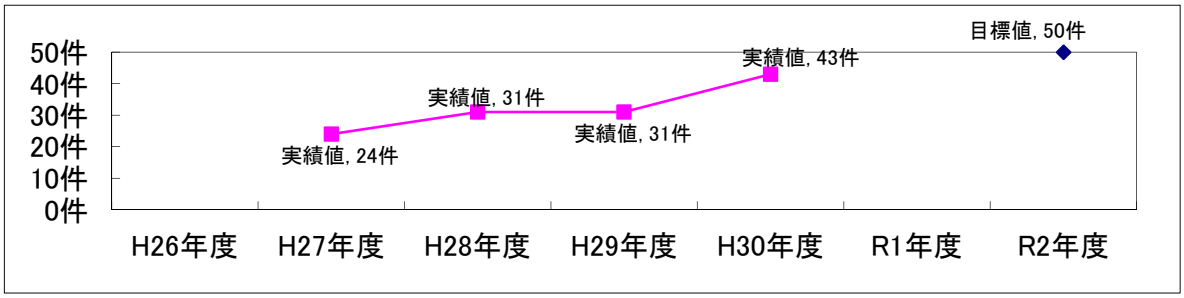
東京2020参画プログラム 平成28年10月から一部先行認証開始、平成29年7月から認証開始
beyond2020プログラム 平成29年1月から認証開始 平成30年4月から県での認証開始

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

若手芸術家等を対象としたﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ等の開催

重点施策7	美の資源を活用した地域団体等との連携事業数(⑬)



評価指標の説明	目標値の説明
NPO等が実施するアートや身近な文化財、暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組を示す指標。	美の資源を活用した取組支援やネットワーク化および広域展開の取組を進める。政策課題の事業目標数を採用。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
		24件	31件	31件	43件		50件

出典・調査方法等

地域の元気創造暮らしアート事業の採択事業数
①委託事業＜H27＞　3団体→＜H28＞ 3団体→＜H29＞ 2団体→＜H30＞1団体
②補助事業＜H27＞10団体→＜H28＞10団体→＜H29＞5団体→＜H30＞8団体

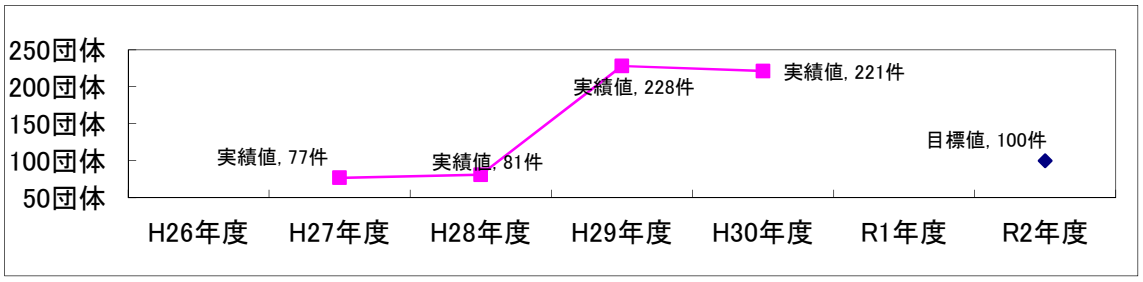
備考

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

住民自らによる地域・暮らしに根ざした取組に対する支援

重点施策7	近代美術館等が事業実施するにあたり連携した施設・団体数(⑭)



評価指標の説明	目標値の説明
地域や各関係団体等と連携・交流して「美の滋賀」を発信する等の取組を示す指標。	地域や団体と連携した取組を進める。政策課題の事業目標数を採用。

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
年間団体数		77団体	81団体	228団体	221団体		100団体

出典・調査方法等

「みんなで創る美術館プロジェクト事業」等による連携団体数
①美の糸口アートにどぼん！ ＜H27＞47団体（参加人数2,500人）→＜H28＞39団体（2,600人）→＜H29＞37団体（2,200人）
→＜H30＞31団体（2,900人）
②美術館地域連携プログラム＜H27＞7団体（参加人数415人）→＜H28＞20団体（1,295人）→＜H29＞146団体（10,281人）
→＜H30＞180団体（12,882人）
③アートバス運行モデル事業＜H27＞6団体（参加人数81人）→＜H28＞12団体（200人）→＜H29＞×
④フォーラムの開催など＜H27＞17団体→＜H28＞10団体→＜H29＞×
⑤「美の滋賀」プロモーション（アートバス運行モデル事業後継版）＜H29＞35団体（304人）→＜H30＞×
⑥みんなで創る美術館円卓会議＜H29＞10団体（10人）→＜H30＞10団体（10人）

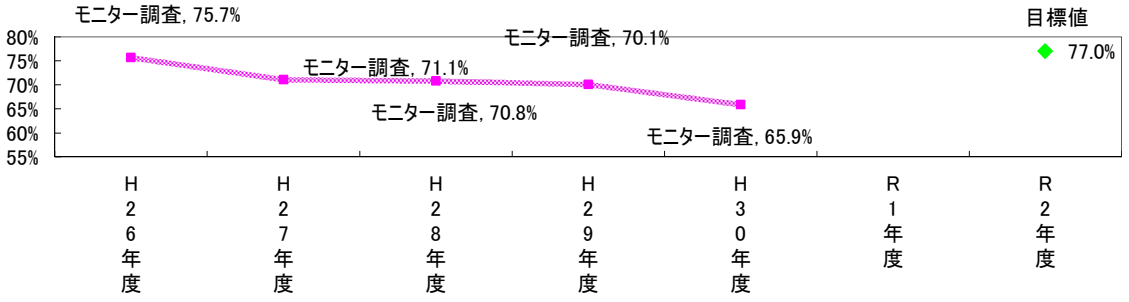
(

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

「美の滋賀」の発信拠点としての新生美術館の整備

重点施策８	１年間に文化創作活動を行ったことのある県民の割合(⑮・⑲)



評価指標の説明	目標値の説明
滋賀県においてどの程度文化創作活動が行われているのかを示す指標。調査における文化創作活動の項目・・・美術、写真、文芸、音楽、ミュージカル・演劇、舞踊、伝統芸能、演芸、メディア芸術、茶道・華道、歴史探訪・伝統行事参加、地域で継承された行事、祭への参加、その他	平成26年度の値より向上させるよう、取り組む。毎年0.5ポイントの増加を見込む。(基本構想の最終年度目標値：平成30年度 75%)

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
県政世論調査	―	―	―	―			77.0%
県政モニター調査	75.7%	71%	70.8%	70.1%	65.9%		

出典・調査方法等

県政世論調査による。
県政世論調査:県内在住満20歳以上の3,000人(選挙人名簿および外国人登録原票より無作為抽出)に対する調査票調査
ただし、県政世論調査で文化が調査対象となるのはおおむね５年に１回程度。(平成20年度、平成25年度に実施)
補足資料として、経年変化を把握するため、毎年県政モニターアンケートにおいて同内容の調査を実施。

備考

この指標に関連するデータ

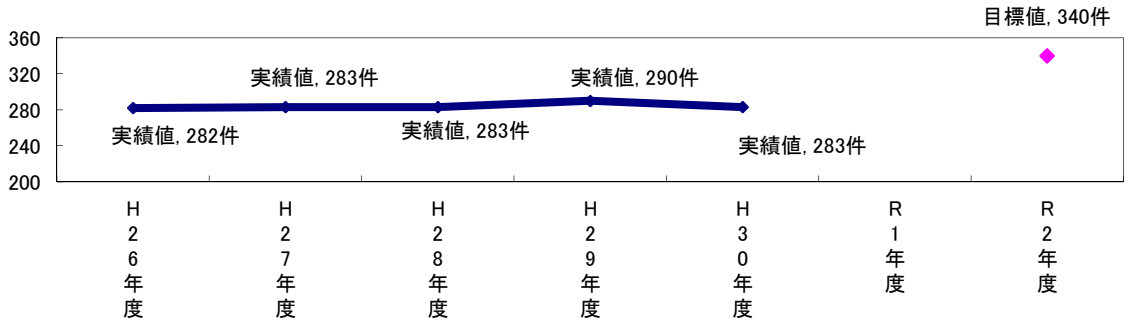
指標と連動する施策

文化団体と県・文化施設との協働事業の実施

文化・芸術活動に関する相談窓口機能の充実

住民自らによる地域・暮らしに根ざした取組に対する支援

重点施策8	民間団体等が主催する文化・芸術行事への県の後援件数(⑯)



評価指標の説明	目標値の説明
文化団体による文化活動がどの程度なされているのか表す指標。文化団体の自主的な活動を支援する取組を実施することにより文化団体の活動が活発になることで数値が向上すると想定して設定。	毎年10件程度の増加を見込み、平成32年度において年間340件を目標に設定。

実績値							目標値
年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
件数	282件	283件	283件	290件	283件		340件

出典・調査方法等

文化振興課において受理している滋賀県知事、滋賀県教育長の後援の件数

備考

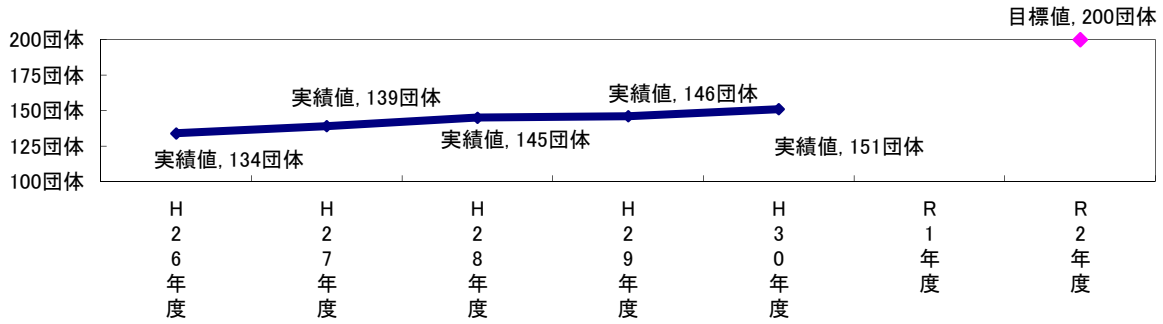
文化情報HP「滋賀文化のススメ」へ後援する行事の情報を掲載することで広報協力している（希望する場合のみ）。

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

民間団体等が主催する文化・芸術行事への後援、広報協力等

重点施策8	県内で活動する文化芸術団体・NPO等の数(⑰)



評価指標の説明	目標値の説明
県内での文化芸術活動を通じた団体等の数の増加を示す指標。	県内の文化芸術活動や文化プログラムの取組を通じて団体等の取組の広がりや団体数の増加を見込む。

実績値							目標値
年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
件数	134団体	139団体	145団体	146団体	151団体		200団体

出典・調査方法等

文化情報HP「滋賀文化のススメ」に登録されている文化芸術団体・NPO数で把握。

備考

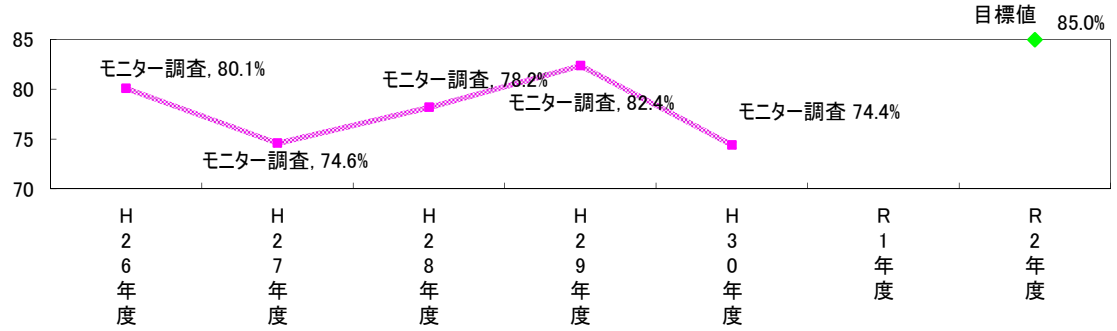
この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

住民自らによる地域・暮らしに根ざした取組に対する支援

民間団体等が主催する文化・芸術行事への後援、広報協力等

重点施策９	1年間に芸術文化を鑑賞したことのある県民の割合(⑱)



評価指標の説明	目標値の説明
県民がどの程度文化に触れ親しんでいるのかを表す指標。調査における鑑賞した芸術文化の項目・・・美術、写真、クラシック音楽・オペラ、ポピュラー音楽、ミュージカル・演劇、舞踊、伝統芸能、演芸、メディア芸術、その他	平成26年度の値より向上させるよう、取り組む。毎年1ポイント程度の増加を見込む。(基本構想の最終年度目標値：平成30年度 85%)

実績値							目標値
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
県政世論調査	―	―	―	―			85.0%
県政モニター調査	80.1%	74.6%	78.2%	82.4%	74.4%		

出典・調査方法等

県政世論調査による。
県政世論調査:県内在住満20歳以上の3,000人(選挙人名簿および外国人登録原票より無作為抽出)に対する調査票調査
ただし、県政世論調査で文化が調査対象となるのはおおむね５年に１回程度。(平成20年度、平成25年度に実施)
補足資料として、経年変化を把握するため、毎年県政モニターアンケートにおいて同内容の調査を実施。

備考

この指標に関連するデータ

指標と連動する施策

- 県立文化施設常設展等の定期的な無料開放
- 文化施設の連携、協働による事業展開
- 文化施設以外で、文化・芸術活動が出来る場の情報収集および提供
- 学校、病院等における公演、展示の開催
- 民間団体等が主催する文化・芸術行事への後援、広報協力等
- 県立美術館・博物館における高齢者や障害者の観覧料の優遇等による鑑賞の促進
- 幼児、家族向け公演・展示等の充実
- インターネットの文化情報発信サイトの充実
- 文化情報誌等の発行